

令和7年度
運営に関する計画
(最終評価)

大阪市立銅座幼稚園
令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

地域に開かれた幼稚園として、保護者・地域・幼稚園が連携し、子どもの健全育成に向け、就学前教育に取り組んでいる。

現状として、本園の子どもたちは家庭で大切に育てられ、落ち着いて活動できる子どもが多い。気性が穏やかで優しい幼児が多いが、自分の思いと違ったり、友達と思いがぶつかったりした時に、諦めてしまう姿も見られる。また、身近な環境や事象に進んで関わろうとする幼児がいる一方で、初めての活動に躊躇したり、受け身であったり、遊びが継続しにくかったりする幼児もいる。

そこで、園内や地域の豊かな環境を活用し、本園の特色を生かした教育活動を実践することにより子どもたちの興味・関心・意欲を高めるとともに、「学びの芽生え」を培っていきたいと考える。

地域とのふれあいや幼保小連携活動を積極的に行い、いろいろな人との関わりの中で思いやりの心を育み、小学校教育への円滑な接続を図るようにする。また、集団生活におけるきまりや防災・安全教育については、幼児期からその大切さと必要性に気付いて行動できるように、発達や実態に応じた指導を行い、家庭への啓発を行う。

以上のような内容について保護者・地域の理解を得ながら取り組み、共に子どもたちの成長を支えていくようにしたいと考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする
- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする

3 本年度の自己評価結果の総括

保育の充実を図ることができるように各年間計画を見直し、地域や小学校、関係諸機関等とも連携して園運営を行った。子どもの実態を教職員が声に出し合い、丁寧に読みとり、相談・協力・連携しながら進めたことで、全ての取組内容において「B：目標どおりに達成した」以上の評価となった。

また、保護者アンケート調査では、7項目全ての肯定的な意見が97%以上となり、本園の教育に理解と信頼を得られているものと考えられる。

それぞれの取組の反省から、改めて年間計画の見直しを図り、今後のさらなる保育の充実につなげていきたい。

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・減災教育や安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>「警備および防災の計画」「安全対策マニュアル」「大規模災害時初期対応マニュアル」に基づき、災害時等に備えた訓練や指導等を実施する</p> <hr/> <p>指標 年間指導計画に基づき、実施する</p> <p>マニュアルの見直しを行い、共通理解を図る</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>幼稚園でのきまりの大切さを知らせ、進んで取り組もうとする気持ちを育む</p> <hr/> <p>指標 年間指導計画に基づき、毎学期、発達段階に応じた指導を実施する</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人の子どもが思いやりの気持ちを持ち、互いのよさを認め合えるような指導を行う</p> <hr/> <p>指標 月1回以上、幼児理解についての連絡会を行う</p> <p>個別の指導計画、個別の支援計画を立て、学期ごとに見直し、教職員間で共有しながら指導を実施する</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、防災・安全教育に積極的に取り組んでいますか」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。</p> <p>1年を通して「警備および防災の計画」「安全対策マニュアル」「大規模災害時初期対応マニュアル」に基づき、年間計画を立てて訓練や指導を実施した。（火災4回、消防署立会い1回、防犯2回、防犯指導1回、地震4回 計12回）子どもの実態や発達段階を即した避難の仕方や避難経路、教職員の配置を考えて実施することで、回を追うごとに様々な避難の仕方を考え、落ち着いて行動できるようになった。また、教職員間の連携強化や安全意識の向上にもつながった。訓練後には、降園連絡時やホームページを活用し、訓練の様子や成長を知らせることで、保護者への啓発につなげることができた。</p>	

7月区役所と連携した防犯指導、11月保護者への引渡し訓練、2月消防署立会い訓練などを通して、専門的な視点での安全について学ぶ機会となった。

- ② 本園保護者アンケート調査の「子どもは、幼稚園でのきまりの大切さに気付き、進んで守ろうとしている」の項目において、肯定的な回答を98%得ることができ、目標を達成することができた。

1学期は「挨拶をしよう」、2学期は「安全な遊具・用具の使い方を考えよう」、3学期は「物を大切にしよう」について年間計画を立て、子どもの実態に合わせて指導を行った。挨拶当番を行うことで、自分から挨拶をする喜び、やりとりの楽しさ、気持ちよさを感じ、自信をもって挨拶をすることができた。登園してくる子どもたちも、教師や友達と挨拶を交わし合う嬉しさや心地よさを味わった。機会を捉え、一緒に挨拶の言葉を考え、意味を知らせることで、子どもは挨拶の意味や言葉に関心をもち、時間や状況に応じた挨拶ができるようになった。

安全な遊具・用具の扱い方について、実際の園庭の遊具や道具の写真を用いて、安全な使い方について改めて子どもたちと考えることで、きまりを守って遊ぼうとする姿につながった。遊具の扱い方に関する掲示物を園庭に掲示することで、正しい使い方を意識して遊ぶことができるようになった。物を大切に使うことについて、学年の実態に合わせて、写真や掲示物を用いて指導することで、自分の持ち物や、スリッパ、縄跳びなどのみんなの物を大切にしようとする気持ちをもつようになった。

- ③ 本園保護者アンケート調査の「幼稚園では互いのよさを認め、思いやりの気持ちを育む指導をしている」の項目について、肯定的な回答を98%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

月1回以上、幼児理解についての検討会や連絡会を行い教職員間で幼児理解を深めることができた。1, 2学期に3回、3学期に2回、外部より特別支援教育についての専門家による指導を受け、継続して幼児の成長や課題について考え合い、教職員の特別支援教育についての資質向上の機会にすることができた。折に触れ、子どもの成長を保護者に細やかに伝えるよう努めたことで、保護者と子どもの成長を共に喜ぶことができ、より子どもの成長を促すことにつながった。夏休みに療育先を訪問し、療育での子どもの様子を見学し、作業内容を知ることができた。また、療育先や相談支援員等とケース会議を行い、共通理解を行いながら指導を進めたことで、幼児の実態を共有し、支援の方法の共通理解や連携を図ることができた。

次年度への改善点

- ①今後も、子どもの実態や発達段階に即した年間計画やマニュアルの見直しを随時行い、外部機関と連携しながら、様々な状況を想定しての訓練や指導を行う。また、教職員間で、各計画やマニュアルを丁寧に共通理解し、より連携を図れるようにする。
- ②今後も継続して、幼稚園でのきまりの大切さを子どもと共に考える機会を多くもてるように努める。また特に挨拶に関しては、気持ちのよい挨拶が自分からできるように、その大切さを具体的に知らせ、互いに喜びが感じられるような言葉のかけ方や態度を伝えていく。また、安全な生活に関心がもてるよう、クラスで話し合いの機会をつくったり、掲示物を工夫したりするなどの取り組みを行っていく。
- ③今後も年間計画に基づき、保護者や療育先との連携を引き続き行っていく。また、専門家の意見や研修等で学んだことを教職員で共有し、支援を要する子どもを含め、一人一人のよさを認め、思いやりの気持ちを育んでいくことができるように指導に努める。

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでいますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする ○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物についてや自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>子どもの心が安定し、主体的に活動できるように環境や援助を工夫する</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 年3回以上園内研究会を実施する</p> <p>就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し、環境や援助の工夫について月に2回以上検討し合う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>子どもの発達段階、興味、季節等に応じて、子どもが自ら心と体を動かし多様な動きを楽しむための環境や援助の在り方について学び合う</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 就学前教育カリキュラムや幼児期運動指針を参考にし、機会を捉えて視聴覚機器を用いながら、年間計画に基づき、指導を実施する。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>基礎的生活習慣を身につける保健指導や栽培活動・食育指導を通して、自身の健康や食への関心を高める</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>指標 子どもの実態に応じた保健指導を実施する。</p> <p>年間計画に基づき、担任と連携し、食育指導を実施する</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① 本園保護者アンケート調査の「幼稚園では、子どもが主体的に活動できるように、環境や指導を工夫している」の項目について、肯定的な回答は100%となり、目標を上回って達成することができた。</p> <p>6月に園全体で園内研究会を1回実施し、各クラスの実態・興味を捉え、環境構成や援助の工夫について検討した。また、各クラス劇遊びで園内研究会を1回ずつ計3回行い、子どもが主体的に活動できるように、環境構成や言葉かけの工夫、援助の仕方などについて学びを深めた。各クラスの週案や園内研究会での指導案作成時に就学前教育カリキュラムを活用したり、普段から教職員同士で環境構成や援助の仕方などについて話</p>	

をしたりすることで、日頃から学び合うことができた。

- ② 本園保護者アンケート調査の「子どもは、体を動かすことを楽しんでますか」の項目について、肯定的な回答を100%得ることができ、目標を上回って達成することができた。

1・2学期は、教師や友達と一緒に鬼遊びや縄遊び、固定遊具など好きな運動遊びを楽しんだ。また、子どもの興味関心に基づき、機会を捉え、運動や遊びに関する動画を見てヒントを得ることで、身近な遊具を組み合わせ、新しい運動遊びを創り出す楽しさを味わった。特にスズランテープ付きの新聞ボール遊びでは、投げる、転がすなどの遊びを通して、体の動かし方を工夫したり調整したりしながら自分の力を試すことを楽しむ様子が見られた。3学期には、年長の姿に影響を受け、一本歯下駄や一輪車を教えてもらいながら挑戦するようになった。異年齢で交流することは、互いの良さを認め合い、憧れや挑戦する気持ちを高めることにつながった。また、自分たちでドッジボールや鬼ごっこの鬼の人数調整をする姿も見られ、友達と関わりを深めながら遊ぶ姿も見られるようになった。

- ③ 本園保護者アンケート調査の「子どもは、いろいろな食べ物について自分の健康に興味や関心をもつようになりましたか」の項目について、肯定的な回答は97%となり、目標を上回って達成することができた。

子どもの実態に応じ「手洗い・うがい」「歯みがき」「お箸の扱い方」「トイレの使い方」「排泄」など、基本的な生活習慣を中心に保健指導を行った。毎日の幼稚園生活の中でその都度、子どもたちに声をかけ、教師と一緒にすることで基本的な生活習慣が身につけてきている。

夏と冬に家族栽培を行い、旬の野菜を保護者と一緒に育てたり、畑で5歳児を中心に子どもたち全員で季節に応じた様々な野菜を育てたりした。毎日の水やりや適時追肥を行い、野菜の生長過程を一緒に見守ることで収穫を喜ぶ姿が見られ、野菜を育てることの大変さを感じると共に自分の育てた野菜を家に持ち帰り食べる喜びを味わうことができた。

お米の栽培では、「田植え」「稲刈り」「脱穀」を経験することでお米を作ることの大変さを知ると共に食べ物を残さず食べることの大切さを知らせることができた。

栽培収穫活動やお弁当の様子、保健指導の様子などを「収穫だより」「保健だより」に掲載したり、登降園時に写真を掲示したり、ホームページ等で、子どもたちの園での活動を保護者や地域に周知した。また、継続的な指導を行うために、家庭で取り組めるワークシートを配付したことで、保護者と連携した取り組みを行うことができた。

今後への改善点

- ① 今後も教員同士が保育を見合い、刺激を受け合えるよう、各クラスでの園内研修会を計画的に実施し、教職員の学びを深め、園全体の保育の資質向上につなげていく。
- ② 今後も引き続き、機会を捉えたICT機器等、視聴覚教材の活用をし、発達段階に応じた遊びの保障と子どもの実態や興味に合った教材の提案を教師が行えるように努める。また、子どもが体を楽しく動かせるような環境を引き続き工夫する。
- ③ 今後も、基本的な生活習慣を身につける保健指導を行うとともに、担任と連携し様々な栽培活動や食育指導を進めていく。また、収穫だよりや写真掲示、ホームページ等により、積極的に園での様子を保護者に周知していく。

大阪市立 銅座幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 今年度末、本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目において、肯定的な回答を90%以上にする</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】</p> <p>子どもが地域への親しみをもてるように、南大江小学校や地域の人との交流・連携活動を進める。その中で、互いの教育内容の理解を深め、小学校への円滑な接続を図ったり、地域に根ざした教育活動を実施したりする。</p> <p>指標 年間計画に基づき、事前事後の打ち合わせも含め、連携活動を実施する</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① 本園保護者アンケート調査の「幼稚園は、地域の小学校をはじめとした周辺地域との連携に努めていますか」の項目について、肯定的な回答を97%となり、目標を上回って達成することができた。</p> <p>年間通して、地域の子育て応援団と連携したふれあいデーや園主催の園庭開放を計12回実施した。季節や子どもの興味関心に合わせた遊びを一緒に楽しんだり、歌や楽器、劇遊びを見てもらったりする中で、地域の方や未就園児に親しみの気持ちを持ち、進んで関わろうとする姿が見られるようになった。</p> <p>5歳児が、6月、11月に小学校を訪問し、授業の様子を見たり、生活科の授業の一環として手づくりおもちゃで遊ばせてもらったりした。小学生への親しみや憧れ、就学への期待をもつことにつながった。また、幼稚園生活や遊びの様子を、写真や文面で小学校に知らせ、感想をいただいた。幼稚園の教育内容や、幼児の発達について理解していただき、幼児教育について発信することができた。</p> <p>保育所や聴覚支援学校とも交流し、進んでいろいろな人と関わろうとする姿が見られた。いろいろな人と関わる楽しさやいろいろな人が自分の周りにいることを感じる機会となった。また園内での活動の際は、3、4歳児も挨拶をしたり園庭での遊びに参加したりと、関わりをもつことができた。</p> <p>12月には、南大江地域の文化祭「たんぼぼの会」に参加した。地域の一員として生活していることの喜び、大切に見守っていただいていることを感じ、感謝の気持ちをもつ機会となった。</p>
今後への改善点
<p>①今後も、地域の小学校をはじめ、諸学校園所との連携を図り、子ども自身が地域の一員であることを感じられる取り組みを行っていく。また、進学・進級への期待を高められるよう、丁寧な引継ぎとともに円滑な接続を図り、地域に根ざした教育活動の実施に努めると共に幼児教育の大切さを発信していけるようにしていきたい。</p>